

がん診療連携拠点病院等 現況報告書(新規指定推薦書・指定更新推薦書・指定類型変更推薦書)

令和4年9月1日時点について記載

✓ チェック欄に未入力な方

1. 推薦区分

現行の指定区分	地域がん診療連携拠点病院
特定機能病院の承認	承認あり (承認あり/承認なし)
臨床研究中核病院の承認	承認なし (承認あり/承認なし)
	現況報告 (新規指定/指定更新/指定類型変更/現況報告)

2. 新規・更新・報告の別

指定期限年月日: 令和 5 年 3 月 31 日

※最新の指定における指定の有効期限の終了年月日を記入してください。

※推薦時点で、拠点病院等として指定を受けていない施設を推薦する場合は「新規指定」を選択してください。

※推薦時点で、指定を受けている類型と同じ類型での指定を推薦する場合は「指定更新」を選択してください。

※推薦時点で地域がん診療連携拠点病院としての指定を希望する場合にも、「指定更新」を選択してください。

※令和5年4月以降の指定更新を希望しない施設においては、「現況報告」を選択してください。

3. 病院概要

(1)病院名 (表紙シートの病院名を反映)	杏林大学医学部付属病院
よみがな	きょうりんんだいがくいがくぶふぞくびょういん

(2)所在地等

郵便番号	〒 181-8611	
住所	東京都	三鷹市新川6丁目20番2号
よみがな		みたかししんかわ6ちょうめ20ばん2ごう
電話番号(代表)	0422-41-5511	
FAX番号(代表)	0422-47-3821	
e-mail(代表)		
HPアドレス	http://www.kyorin-u.ac.jp/hospital/	
所属するがん医療圏		
所属する2次医療圏	北多摩南部医療圏	

(3)病床数等

①病床数

総数	1,153	床
うち療養病床	0	床
うち一般病床	1,121	床
うち特別療養環境室としている病床	154	床
うち集中治療室(※特定集中治療室管理料を届け出しているものに限る)	104	床

(4)職員数

総職員数(事務職員含む、常勤職員の人数)	2,494	人
----------------------	-------	---

- ・常勤:原則として病院で定めた勤務時間の全てを勤務する者をいう。病院で定めた医師の1週間の勤務時間が、32時間未満の場合は、32時間以上勤務している者を常勤とし、その他は非常勤とする。

①職種別内訳

※複数の資格を有する者は、主たる業務に係る職種についてのみ記載。

非常勤

常勤

※(常勤換算)

医師	41	人	617	人
歯科医師	0.7	人	4	人
薬剤師	0	人	66	人
保健師	0	人	0	人
助産師	0	人	96	人
看護師	1.5	人	1,318	人
准看護師	0	人	1	人
理学療法士	0.5	人	24	人
作業療法士	0	人	11	人
視能訓練士	0.2	人	18	人
言語聴覚士	0	人	7	人
義肢装具士	0	人	0	人
歯科衛生士	0.7	人	5	人
歯科技工士	0	人	0	人
診療放射線技師	0	人	64	人
臨床検査技師	0.7	人	99	人
衛生検査技師	0	人	0	人
臨床工学技士	0	人	31	人
管理栄養士	0	人	17	人
栄養士	0	人	0	人
社会福祉士	0	人	4	人
精神保健福祉士	0	人	8	人
公認心理師	0	人	1	人
介護福祉士	0	人	0	人
救命救急士	0	人	0	人

※(2)~(4)については、複数の資格を持つものは、両方にカウントする。

②医師等の専門性に関する資格名に該当する人数等について

※(常勤換算)

一般財団法人 日本インターベンショナルラジオロジー学会 IVR専門医	0	人	2	人
一般社団法人 日本アレルギー学会 アレルギー専門医	0	人	6	人
公益社団法人 日本医学放射線学会 放射線専門医	0	人	12	人
公益社団法人 日本医学放射線学会 放射線診断専門医	0	人	10	人
公益社団法人 日本医学放射線学会 放射線治療専門医 (日本放射線腫瘍学会 放射線治療専門医を含めてよい)	0	人	2	人
一般社団法人 日本核医学会 核医学専門医	0	人	1	人
一般社団法人 日本核医学会 PET核医学認定医	0	人	3	人
公益財団法人 日本眼科学会 眼科専門医	0	人	23	人
一般社団法人 日本感染症学会 感染症専門医	0	人	3	人
一般社団法人 日本がん治療認定医機関 がん治療認定医	0.58	人	28	人
特定非営利活動法人 日本緩和医療学会 緩和医療認定医	0	人	2	人
特定非営利活動法人 日本緩和医療学会 緩和医療専門医	0	人	0	人
一般社団法人 日本肝臓学会 肝臓専門医	0	人	6	人
一般社団法人 日本肝胆脾外科学会 高度技能指導医	0	人	1	人
一般社団法人 日本肝胆脾外科学会 高度技能専門医	0	人	3	人
特定非営利活動法人 日本気管食道科学会 気管食道科専門医	1/430	人	4	人

乳癌冷凍凝固摘出術 K475-2	0	件	254	✓
乳腺腫瘍摘出術(生検) K474\$	42	件	255	✓
乳腺腫瘍画像ガイド下吸引術 K474-3\$	29	件	256	✓
乳房再建術(乳房切除後) 二次的に行うもの K476-32	4	件	257	✓
前立腺がん(C61)の手術件数			258	
開腹手術 K843	0	件	259	✓
腹腔鏡下手術 K843-2、K843-3、K843-4	71	件	260	✓
肝臓がん(C22\$、D01.5)の手術件数			261	
開腹手術 K695\$	49	件	262	✓
腹腔鏡下手術 K695-2\$	5	件	263	✓
マイクロ波凝固法 K697-2\$	0	件	264	✓
ラジオ波焼灼療法 K697-3\$	24	件	265	✓
胆のうがん(C23)の手術件数			266	
開腹手術 K675\$	3	件	267	✓
腹腔鏡下手術 K675-2	0	件	268	✓
胆管がん(C240、C241、C248、C249)の手術件数			269	
開腹手術 K677、K677-2	6	件	270	✓
脾臓がん(C250、C251、C252、C253、C254、C257、C258、C259)の手術件数			271	
開腹手術 K700-2、K702\$、K703\$、K704	57	件	272	✓
腹腔鏡下手術 K700-3、K702-2\$、K703-2\$	0	件	273	✓
放射線治療の状況			274	
※以下、放射線治療件数に関する項目は、必ず放射線治療責任医師の確認を取って記入すること。			275	
全てのがんを対象としたべ患者数 (令和3年1月1日～12月31日の間に放射線治療を開始した患者数)			276	
体外照射	691	人	277	✓
定位照射(脳)	12	人	278	✓
定位照射(体幹部)	17	人	279	✓
強度変調放射線治療(IMRT)	171	人	280	✓
粒子線治療(重粒子線、陽子線治療)	0	人	281	✓
密封小線源治療	6	人	282	✓
核医学治療	6	人	283	✓
我が国に多いがんを対象としたべ患者数 (令和3年1月1日～12月31日の間に放射線治療を開始した患者数)			284	
※原発巣に記載してください。			285	
肺がん	133	人	286	✓
胃がん	7	人	287	✓
肝がん	2	人	288	✓
大腸がん	41	人	289	✓
胆のう・胆管がん	5	人	290	✓
脾臓がん	5	人	291	✓
乳がん	18	人	292	✓
前立腺がん	43	人	293	✓
緩和ケアチームに対する新規診療症例の状況(重複可)(令和3年1月1日～12月31日)			294	
身体症状の緩和を行った症例数	243	人	295	✓
精神症状の緩和を行った症例数	44	人	296	✓
社会的苦痛に対する緩和を行った症例数	2	人	297	✓
自施設で実施したがんの治療に際する妊娠性温存治療の状況(令和3年1月1日～12月31日)			298	
がんの治療に際する妊娠性温存目的で精子保存を行った患者の人数	1	人	299	✓
がんの治療に際する妊娠性温存目的で精巣内精子採取術(Oncot-TESE)を行った患者の人数	0	人	300	✓
がんの治療に際する妊娠性温存目的未受精卵子、受精卵(胚)、あるいは、卵巣組織の凍結保存を行った患者の人数	0	人	301	✓
成人のがん患者の造血器腫瘍に対する自家移植を自施設で行う体制を有している。	はい	(はい／いいえ)	303	✓
成人のがん患者の造血器腫瘍に対する同種移植を自施設で行う体制を有している。	はい	(はい／いいえ)	304	✓
成人のがん患者の固形腫瘍に対する自家移植を自施設で行う体制を有している。	いいえ	(はい／いいえ)	305	✓
小児のがん患者の造血器腫瘍に対する自家移植を自施設で行う体制を有している。	はい	(はい／いいえ)	306	✓
小児のがん患者の造血器腫瘍に対する同種移植を自施設で行う体制を有している。	いいえ	(はい／いいえ)	307	✓
小児のがん患者の固形腫瘍に対する自家移植を自施設で行う体制を有している。	はい	(はい／いいえ)	308	✓
成人のがん患者の造血器腫瘍に対するCAR-T療法を自施設で行う体制を有している。	いいえ	(はい／いいえ)	310	✓
小児のがん患者の造血器腫瘍に対するCAR-T療法を自施設で行う体制を有している。	いいえ	(はい／いいえ)	311	✓
(9)小児がん患者への対応について			312	
院内学級を開催している(院内学級とは、ここでは院内に設置された小・中学特別支援学級、特別支援学校を指す)。	はい	(はい／いいえ)	314	✓
小児がん患者と家族が利用できる宿泊施設を院内に整備している。	いいえ	(はい／いいえ)	315	✓
小児がん患者と家族が利用できる宿泊施設を院外に整備している。	はい	(はい／いいえ)	316	✓
小児がん患者と家族が利用できる院外の最寄宿泊施設から自施設までの移動時間(該当施設がない場合には0を記入)	20	分	317	✓
(10)その他の施設について			318	
集中治療室を設置している。	はい	(はい／いいえ)	320	✓
緩和ケア病棟を有している。	いいえ	(はい／いいえ)	321	✓
緩和ケア病棟を有する場合、別紙6に詳細を記載すること。			322	
(11)その他			323	
がん検診後の精密検査を実施している。	はい	(はい／いいえ)	324	
精密検査を実施している場合、令和3年4月1日～令和4年3月31日の期間に実施した精密検査の受診件数を記載してください。			325	✓
※一人の患者が同一のがん種について、2回検査を受けた場合には、2件として計上してください。			326	
※一人の患者が複数のがん種について1回ずつ検査を受けた場合には、それぞれのがん種に1件として計上してください。			327	
大腸がん	1,579	件	329	✓
肺がん	989	件	330	✓
胃がん	76	件	331	✓
乳がん	351	件	332	✓
子宮頸がん	87	件	333	✓

指針の箇所	要件	要件区分	令和4年9月1日時点の状況	備考欄
573	希少がん、小児がん、AYA世代のがん患者への治療及び支援(妊産性温存療法を含む)やがんゲノム医療についても、自施設で提供できる場合や連携して実施する場合はその旨を広報している。	-	■■■■■	
574	希少がんへの治療及び支援を自施設もしくは連携する施設への紹介等で提供できる。	-	■■■■■	
575	提供できる治療・支援の内容を広報している。	A/-	■■■■■	
576	小児がんへの治療及び支援を自施設もしくは連携する施設への紹介等で提供できる。	-	■■■■■	
577	提供できる治療・支援の内容を広報している。	A/-	■■■■■	
578	AYA世代のがんへの治療及び支援を自施設もしくは連携する施設への紹介等で提供できる。	-	■■■■■	
579	提供できる治療・支援の内容を広報している。	A/-	■■■■■	
580	妊産性温存療法への治療及び支援を自施設もしくは連携する施設への紹介等で提供できる。	-	■■■■■	
581	提供できる治療・支援の内容を広報している。	A/-	■■■■■	
582	がんゲノム医療への治療及び支援を自施設もしくは連携する施設への紹介等で提供できる。	-	■■■■■	
583	提供できる治療・支援の内容を広報している。	A/-	■■■■■	
584	大規模災害や感染症の流行などにより自院の診療状況に変化が生じた場合には、速やかに情報公開をするよう努めている。	-	■■■■■	
585	(2) 当該がん医療圏内のがん診療に関する情報について、病院ホームページ等でわかりやすく広報している。	-	■■■■■	
586	特に、我が国に多いがんの中で、自施設で対応しない診療内容についての連携先や集学的治療等が終了した後のフォローアップについて地域で連携する医療機関等の情報提供を行っている。	-	■■■■■	別紙4に詳細を記載してください。
587	(3) 地域を対象として、緩和ケアやがん教育、患者向け一般向けのガイドラインの活用法等に関する普及啓発に努めている。	-	■■■■■	
588	(4) 参加中の治療についての対象であるがんの種類及び薬剤名等を広報している。	-	■■■■■	
589	(5) 患者に対して治療も含めた医薬品等の臨床研究、先進医療、患者申出療養等に関する適切な情報提供を行うとともに、必要に応じて適切な医療機関に紹介している。	-	■■■■■	別紙17に詳細を記載してください。
590	(6) がん教育について、当該がん医療圏における学校や職場より依頼があった際には、外部講師として診療従事者を派遣し、がんに関する正しい知識の普及啓発に努めている。	-	■■■■■	
591	なお、がん教育に当たっては、児童生徒が当事者である場合や、身近にがん患者を持つ場合等があることを踏まえ、対象者へ十分な配慮を行っている。	-	■■■■■	
592	6 臨床研究及び調査研究			
593	(1) 政策的公衆衛生的に必要性の高い調査研究に協力に努めている。	-	■■■■■	
594	これらの研究の協力依頼に対応する窓口の連絡先を国立がん研究センターに登録する。	-	■■■■■	別紙18に詳細を記載してください。
595	(2) 治験を含む医薬品等の臨床研究を行う場合は、臨床研究コーディネーター(CRC)を配置すること。	-	■■■■■	
596	治験を含む医薬品等の臨床研究を行っている。	-	■■■■■	
597	臨床研究コーディネーターを配置している。	-	■■■■■	
598	臨床研究コーディネーターとして勤務している者の人数	-	■■■■■	
599	治験を除く医薬品等の臨床研究を行う場合は、臨床研究法に則った体制を整備している。	-	■■■■■	
600	治験を除く医薬品等の臨床研究を行っている。	-	■■■■■	
601	臨床研究法に則った体制を整備している。	-	■■■■■	
602	実施内容の広報等に努めている。	-	■■■■■	
603	7 医療の質の改善の取組及び安全管理			
604	(1) 自施設の診療機能や診療実績、地域連携に関する実績や活動状況の他、がん患者の療養生活の質について把握・評価し、課題認識を院内の関係者で共有した上で、組織的な改善策を講じている。	-	■■■■■	別紙19に詳細を記載してください。
605	その際にはQuality Indicatorを利用するなどして、PDCAサイクルが確保できるよう工夫をしている。	-	■■■■■	別紙19に詳細を記載してください。
606	医療法等に基づく医療安全にかかる適切な体制を確保している。	-	■■■■■	別紙20に詳細を記載してください。
607	(2) 日本医療機能評価機構の審査等の第三者による評価を受けている。	-	■■■■■	別紙20に詳細を記載してください。
608	第三者の名称	-	■■■■■	
609	直近で評価を受けたタイミング(YYYY/MM)	-	■■■■■	

様式4(機能別)の該当指定要件のAのうち満たしていない項目について記載の有無
あり

※「あり」とするとデータ抽出の対象となります。記載する内容がない場合は「なし」としてください。「なし」の場合は以下について記入の必要はありません。

病院名:	杏林大学医学部付属病院
時期・期間:	令和4年9月1日時点

※様式4(機能別)の該当指定要件の人たち満たしていない項目について、満たしていない項目とその理由と今後の見通し等について具体的に記載してください。

※通し番号については、様式4(機能別)シートのA列(左端)の番号を記入してください。

※令和4年9月2日以降に、要件の充足状況に変動があった場合には、別途、都道府県を通じて文書で厚生労働省健康局がん・疾病対策課へ届け出てください。

通し番号	令和4年9月1日時点で満たしていない要件 (通し番号を入力すれば、自動入力されます。)	現状の説明	充足見込み時期
例 125	専任の放射線診断に携わる専門的な知識及び技能を有する常勤の医師の人数	令和4年9月1日時点では専任の医師は配置できていない(兼任で配置している)。	令和5年3月1日段階での整備を行う予定である。
例 180	放射線治療のべ患者数 (基準: 年間200人以上)	令和3年〇月〇日～令和3年〇月〇日までの期間、放射線治療機器の入れ替えを行ったため同期間の治療ができなかった。令和3年〇月〇日以降は通常通りの治療を行っている。また、直近1年間の治療実績は〇件であった。	令和4年は基準の治療数を達成できる見込み。
例 189	「がん等の診療に携わる医師等に対する緩和ケア研修会の開催指針」(平成29年12月1日付け健発1201第2号厚生労働省健康局長通知の別添)に準拠し、当該がん医療圏においてがん診療に携わる医師を対象とした緩和ケアに関する研修を、都道府県と協議の上、開催している。	今般の新型コロナウイルス感染症の流行に伴い、予定していた緩和ケア研修会が中止となっている。	今後〇月にWebでの開催を予定している。
例 216	国立がん研究センターによるがん相談支援センター相談員基礎研修(1)～(3)を修了した専従及び専任の相談支援に携わる者をそれぞれ1人ずつ配置している。	今般の新型コロナウイルス感染症の流行に伴い、受講を予定していた基礎研修(3)の研修会が中止となっている。	今後〇月に受講予定である。
例 244	国立がん研究センターが実施する研修で中級認定者の認定を受けている、専従の院内がん登録の実務を担う者を1人以上配置している。	今般の新型コロナウイルス感染症の流行に伴い、受講を予定していた中級者認定試験が中止となっている。	今般の新型コロナウイルス感染症の流行に伴い、受講を予定していた中級者認定試験が中止となっていたが、今後〇月に受験予定である。
1 182	当該がん医療圏に居住するがん患者のうち、2割程度について診療実績がある。	圏域内に複数の拠点病院が存在するため、診療実績は2割を下回ったが、指定要件 II(3)(1)①の要件は全て満たしている	
2			
3			
4			
5			
6			
7			
8			
9			
10			
11			
12			
13			
14			

専門とするがんの診療状況

記載の有無

あり

*「あり」とするとデータ抽出の対象となります。記載する内容がない場合は「なし」としてください。「なし」の場合は以下について記入の必要はありません。

病院名: 杏林大学医学部付属病院

時期・期間: 令和3年1月1日～12月31日

我が国に多いがんと、希少がんを含むそれ以外のがんの各がん種において、

■診断および各種・各段階の治療における自施設の専門レベルを専門: ◎、対応可: ○、他施設へ紹介: △で記入してください。

・専門 (◎) : 当該がんを特に専門とする医師があり、周囲の施設から患者を積極的に集めている

・対応可 (○) : 積極的に患者を集めているわけではないが、自施設で標準的な対応（診断・治療）が可能

・他施設へ紹介 (△) : 他の施設に紹介することで対応している

■診断あるいはいずれかの治療について、「専門◎」、あるいは「対応可○」と記載した場合は、2020年、2021年の治療開始数（院内がん登録の、症例区分20, 21, 30）を、

国立がん研究センターにおいて計算し提供しますので記入不要です。その際には、より詳細な区分で集計します。

■備考には、手術・放射線・薬物療法以外で行っている治療や特に当該がん種に関する窓口などがあれば、記載して下さい。

■「臨床試験の実績の有無」については、過去5年間の臨床試験の参加実績の有無についてご記入ください（有・無）。

■特に明記されていないところでは、各臓器でリンパ腫を除く各部位のがんについてお答えください。

注 専門=当該がんを特に専門とする医師があり、当該がんの患者を積極的に集めているレベル

対応可=当該がんの標準的な診断・治療が可能

臨床試験=過去の参加実績であり、現在実施中であるかは問わない。I～III相いずれでもよい。

成人(15歳以上)	診断 (生検等)	専門◎/対応可○/他施設へ紹介△ 初発例への治療				臨床試験の 実績の 有無	治療開始数		担当診療科 (複数記載可)	備考 公開の窓口・特記事項など	
		手術	放射線	薬物療法	再発例 への治療		2020年	2021年			
脳腫瘍(リンパ腫以外)	◎	◎	◎	◎	◎	有	(良悪性別に集計表示)		脳神経外科、放射線治療科		
脳腫瘍(リンパ腫)	◎	◎	◎	◎	◎	有			脳神経外科、放射線治療科		
脊髄腫瘍	◎	◎	○	△	○	無			整形外科、放射線治療科		
眼腫瘍(眼瞼以外)	△	△	△	△	△	無			眼科		
鼻腔・副鼻腔がん	◎	◎	◎	◎	◎	無			耳鼻咽喉科、放射線治療科		
口腔がん	◎	◎	◎	◎	◎	無			耳鼻咽喉科、放射線治療科		
咽頭がん(上・中・下)	◎	◎	◎	◎	◎	無	(上・中・下咽頭別に集計表示)		耳鼻咽喉科、放射線治療科		
喉頭がん	◎	◎	◎	◎	◎	無			耳鼻咽喉科、放射線治療科		
唾液腺がん	◎	◎	◎	◎	◎	無			耳鼻咽喉科、放射線治療科		
外耳道がん	◎	◎	○	○	○	無			耳鼻咽喉科、放射線治療科		
頭頸部肉腫	◎	◎	◎	◎	○	無			耳鼻咽喉科、放射線治療科		
甲状腺がん	◎	◎	◎	◎	◎	無			甲状腺外科、耳鼻咽喉科、放射線治療科、腫瘍内科		
乳がん	◎	◎	◎	○	◎	有			乳腺外科、放射線治療科		
気管がん	◎	◎	◎	◎	◎	無			呼吸器外科、呼吸器内科、腫瘍内科、放射線治療科		
非小細胞肺がん	◎	◎	◎	◎	◎	有			呼吸器外科、呼吸器内科、腫瘍内科、放射線治療科		
小細胞肺がん	◎	◎	◎	◎	◎	無			呼吸器外科、呼吸器内科、腫瘍内科、放射線治療科		
縦隔腫瘍(胸膜がん、胸腺腫)	◎	◎	◎	◎	◎	無	(胸膜がん、胸腺腫別に集計表示)		呼吸器外科、呼吸器内科、腫瘍内科、放射線治療科		
縦隔腔細胞腫瘍	◎	◎	◎	◎	◎	無			呼吸器外科、呼吸器内科、腫瘍内科、放射線治療科		
縦隔腫瘍(それ以外の腫瘍)	◎	◎	◎	◎	◎	無			呼吸器外科、呼吸器内科、腫瘍内科、放射線治療科		
中皮腫(胸膜)	◎	◎	◎	◎	◎	無			呼吸器外科、呼吸器内科、腫瘍内科、放射線治療科		
中皮腫(腹膜)	◎	◎	◎	◎	◎	無			呼吸器外科、呼吸器内科、腫瘍内科、放射線治療科		
食道がん	◎	◎	◎	◎	◎	無			上部消化管外科、耳鼻咽喉科、消化器内科、腫瘍内科、放射線治療科		
胃がん	◎	◎	◎	◎	◎	有			上部消化管外科、消化器内科、腫瘍内科、放射線治療科		
小腸がん	◎	◎	○	○	○	無			上部消化管外科、下部消化管外科、消化器内科、放射線治療科		
大腸がん(結腸・直腸)	◎	◎	◎	◎	◎	有			下部消化管外科、消化器内科、腫瘍内科、放射線治療科		
肛門・肛門管がん	◎	◎	◎	◎	◎	有			下部消化管外科、消化器内科、腫瘍内科、放射線治療科		
消化管間質性腫瘍(GIST)	◎	◎	○	◎	◎	有			上部消化管外科、下部消化管外科、肝胆脾外科、消化器内科、腫瘍内科		
消化管の神経内分泌腫瘍(NET/NEC)	◎	◎	○	○	○	無	(NET/NECは別に集計表示)		上部消化管外科、下部消化管外科、肝胆脾外科、消化器内科、腫瘍内科		
肝臓がん	◎	◎	○	◎	◎	有			肝胆脾外科、腫瘍内科、放射線治療科、放射鏡検査科、消化器内科		
胆のう・胆管がん	◎	◎	◎	◎	◎	有	(肝内、肝外を別に集計表示)		肝胆脾外科、腫瘍内科、放射線治療科、放射鏡検査科、消化器内科		
すい臓がん(NET/NEC以外)	◎	◎	◎	○	◎	有			肝胆脾外科、腫瘍内科、胆管内科、放射線治療科		
すい臓の神経内分泌腫瘍(NET/NEC)	◎	◎	◎	○	◎	無	(NET/NECは別に集計表示)		肝胆脾外科、腫瘍内科、胆管内科、放射線治療科		
腹膜偽粘液腫(他のがんの腹膜播種を除く)	◎	◎	○	△	○	無			下部消化管外科、消化器内科、腫瘍内科		
テスモド腫瘍	◎	◎	○	○	○	無			整形外科、放射線治療科		
後腹膜肉腫	◎	◎	◎	◎	◎	有			泌尿器科、整形外科、放射線治療科		
腎がん	◎	◎	◎	◎	◎	有			泌尿器科、放射線治療科		
褐色細胞腫・傍神経節腫瘍(頭頸部以外)	◎	◎	◎	◎	◎	無			泌尿器科、放射線治療科		
副腎皮質がん	◎	◎	◎	◎	◎	無			泌尿器科、放射線治療科		
腎盂尿管がん・膀胱がん	◎	◎	◎	◎	◎	有	(腎盂・尿管・膀胱は別に集計表示)		泌尿器科、放射線治療科		

精巣腫瘍	○	○	○	○	○	無		泌尿器科、放射線治療科	
前立腺がん	○	○	○	○	○	有		泌尿器科、放射線治療科	
子宮頸がん(上皮性)	○	○	○	○	○	有		産婦人科、放射線治療科	
子宮体がん(上皮性)	○	○	○	○	○	有		産婦人科、放射線治療科	
子宮肉腫	○	○	○	○	○	無		産婦人科、放射線治療科	
卵巢がん、卵管がん、腹膜がん(上皮性)	○	○	○	○	○	有		産婦人科、放射線治療科	
卵巢胚細胞腫瘍	○	○	○	○	○	無		産婦人科、放射線治療科	
外陰がん	○	○	○	○	○	無		産婦人科、皮膚科、放射線治療科	
四肢・表在体幹の悪性軟部腫瘍	○	○	○	○	○	有		整形外科、放射線治療科	
四肢・表在体幹の悪性骨腫瘍	○	○	○	○	○	有		整形外科、放射線治療科	
皮膚の悪性黒色腫	○	○	○	○	○	無		皮膚科、放射線治療科	
皮膚がん(悪性黒色腫以外)	○	○	○	○	○	無		皮膚科、放射線治療科	
悪性リンパ腫	○	○	○	○	○	有		血液内科、眼科、放射線治療科	
急性白血病(骨髓性、リンパ性)	○	○	○	○	○	有		血液内科、放射線治療科	
慢性白血病(骨髓性、リンパ性)	○	○	○	○	○	有		血液内科、放射線治療科	
多発性骨髓腫	○	○	○	○	○	有		血液内科、放射線治療科	
原発不明がん	○	○	○	○	○	無		腫瘍内科、放射線治療科	がん登録でコードがなく集計不可
		専門○／対応可○／他施設へ紹介△							
		初発例への治療				臨床試験の実績の有無	治療開始数		備考 公開の窓口・特記事項など
小児(15歳未満)	診断 (生検等)	手術	放射線	薬物療法	再発例 への治療		2020年	2021年	
小児脳腫瘍	○	○	○	△	△	無		脳神経外科、小児科、放射線治療科	
小児眼腫瘍	△	△	△	△	△	無		眼科、小児科	
小児悪性骨腫瘍	○	○	○	○	○	有		整形外科、放射線治療科	
小児造血器腫瘍	○			○	○	有		小児科	
小児固形腫瘍(脳・目・骨以外)	○	○	○	○	○	有		小児科、小児外科、整形外科、放射線治療科	

我が国に多いがんに対して、自施設で対応しない診療内容

記載の有無

なし

※「あり」とするとデータ抽出の対象となります。記載する内容がない場合は「なし」としてください。「なし」の場合は以下について記入の必要はありません。

病院名: 杏林大学医学部付属病院

時期・期間: 令和4年9月1日時点

我が国に多いがんに対して、自施設で対応しない診療内容があれば、下の表に状況を記載してください。

我が国に多いがん	自施設で対応しない診療内容について、該当するがん種と治療法の組み合わせに"○"を入力してください。			自施設で対応していない診療内容についての連携先 (施設名・診療内容)
	手術療法	薬物療法	放射線療法	
(例) 膵臓がん	○			手術をする膵臓がん患者は、連携する××病院に紹介している。 手術後の薬物療法については、自施設で対応している。
大腸がん				
肺がん				
胃がん				
乳がん				
前立腺がん				
肝がん				
胆のう・胆管がん				
膵臓がん				

カンファレンスについて

※「あり」とするとデータ抽出の対象となります。記載する内容がない場合は「なし」としてください。「なし」の場合は以下について記入の必要はありません。	記載の有無 <input checked="" type="checkbox"/> あり
病院名:	杏林大学医学部付属病院
時期・期間:	令和4年9月1日時点

※この別紙は任意記載です。

整備指針Ⅱの2の(1)の①のウ及びVIの2の(1)の①のオに定めるカンファレンスのうち、iii及びivについて記載してください。

iiiのカンファレンスについて、検討している症例・テーマ・参加する職種等について自由記載してください。
定期的な開催が現状難しい場合には、その理由を記載してください。

骨転移等に関する横断的且つ困難な症例に関して、医師・看護師・理学療法士・作業療法士を中心に確定診断及び治療方針を定例(週1回)で開催し、
検討を行っている。また、がんセンターに従事する放射線科医師、緩和ケアチーム、薬剤師、MSWも患者の状態に応じ、参加出来る体制を確保している。

ivのカンファレンスについて、検討している症例・テーマ・参加する職種等について自由記載してください。
定期的な開催が現状難しい場合には、その理由を記載してください。

社会的背景が複雑なケース、倫理的な問題があるケースなどについて共有し、ケースカンファレンスを行っている。
また、がん相談の看護師、医療ソーシャルワーカー、小児の相談員が参加している。

緩和ケア外来の状況

記載の有無

あり

※「あり」とするとデータ抽出の対象となります。記載する内容がない場合は「なし」としてください。「なし」の場合は以下について記入の必要はありません。

病院名: 杏林大学医学部付属病院

時期・期間: 令和4年9月1日時点

1	緩和ケア外来が設定されている（はい／いいえ）			はい	
2	緩和ケア外来の名称			緩和ケア外来	
3	担当診療科名			麻酔科	
4	緩和ケア外来の頻度(○回/週)			2回／週	
5	主な診療内容・特色・アピールポイント			麻酔科医とがんに関連した専門・認定看護師が、症状緩和だけではなく、がん治療中、終了後のメンタルケアや家族ケアにあたっている。在宅療養については患者支援センターと協働し、速やかに社会資源の導入などの介入ができるようしている。	
6	緩和ケア外来の説明が掲載されているページの見出しとアドレス	見出し	がんセンター緩和ケアチーム		
	※アドレスは、手入力せずにホームページからコピーしてください	アドレス	http://www.kyorin-u.ac.jp/hospital/clinic/center08/care/		
7	他施設でがんの診療を受けている、または、診療を受けていた患者さんを受け入れている（はい／いいえ）			はい	
■地域の患者さんやご家族向けの問い合わせ窓口が設定されている（はい／いいえ）				はい	
8	窓口の名称	がん相談支援センター			
	電話番号	0422-47-5511	(内線)	2030	
■地域の医療機関向けの問い合わせ窓口が設定されている（はい／いいえ）				はい	
9	窓口の名称	がん相談支援センター			
	電話番号	0422-47-5511	(内線)	2030	
祝祭日、年末年始以外の休み(創立記念日など)					
10	緩和ケア外来の状況 期間: 令和3年1月1日～12月31日	以下については、自施設でがん診療を受けている患者について記載してください。			
		緩和ケア外来患者の年間新規診療患者数	10	人	
		緩和ケア外来患者の年間受診患者のべ数	66	人	
		以下については、緩和ケア外来受診まで自施設でがん診療を受けていなかった患者について記載してください。			
		地域の医療機関からの年間新規紹介患者数	0	人	
		地域の医療機関からの年間受診患者のべ数	0	人	

緩和ケア病棟の状況

記載の有無
なし

※「あり」とするとデータ抽出の対象となります。記載する内容がない場合は「なし」としてください。「なし」の場合は以下について記入の必要はありません。

病院名: 杏林大学医学部付属病院

時期・期間: 令和4年9月1日時点

※緩和ケア病棟が設定されている場合に限り、「2」以降を記載してください。

1	緩和ケア病棟を有している			
2	緩和ケア病棟入院料の届出・受理			
3	緩和ケア病棟の形式			
4	緩和ケア病棟の病床数	床		
5	緩和ケア病棟に入院した患者の申し込みから入院するまでの平均待機期間			日
6	緩和ケア病棟の年間新入院患者数(令和3年1月1日～12月31日)			人
	緩和ケア病棟の年間死亡患者数(令和3年1月1日～12月31日)			人
7	緩和ケア病棟の説明が掲載されているページの見出しとアドレス	見出し		
	※アドレスは、手入力せずにホームページからコピーしてください。	アドレス		
8	(例) 医師	2	(例) 精神保健福祉士	1
	緩和ケア病棟を担当するスタッフの職種・人数(人)			
	※常勤・非常勤・専従・専任・兼任などに関わらず、緩和ケア病棟の診療に携わっているスタッフについて記載してください。			
■地域の患者さんやご家族向けの問い合わせ窓口が設定されている(はい／いいえ)				
窓口の名称				
電話番号	(内線)			
問い合わせ窓口について掲載しているホームページ	見出し			
	アドレス			
■地域の医療機関向けの問い合わせ窓口が設定されている(はい／いいえ)				
窓口の名称				
電話番号	(内線)			
問い合わせ窓口について掲載しているホームページ	見出し			
	アドレス			
10	緩和ケア病棟の設備	例: 家族用キッチン、家族室、談話室、ランドリー、デイルーム(食事や面会者との談話、ボランティアによるティーサービスがある)、特殊入浴室		
11	訪問看護ケアの有無	例: 自施設で実施している、同一医療法人の施設で実施している、連携している訪問看護ケアステーションを紹介している、など		

地域緩和ケア連携体制

※「あり」とするとデータ抽出の対象となります。記載する内容がない場合は「なし」としてください。「なし」の場合は以下について記入の必要はありません。

あり

病院名: 杏林大学医学部付属病院

時点: 令和4年9月1日時点

【緩和ケアに関する地域連携を推進するために、地域の施設が開催する多職種連携カンファレンスに参加した年間回数】

令和3年1月1日～12月31日 自施設が主催したもの（※共催を含む）

2回
1回

地域内の他施設が主催したもの

注1) 多職種連携カンファレンスとは「地域全体の医療を推進するため地域医療を支える多施設かつ多職種の連携強化と顔の見える関係づくりを目的として、緩和ケアに関わる多職種の医療・介護従事者等が一堂に会する場」とする。

注2) 患者の退院支援カンファレンス等、患者個人の情報共有のために開催したカンファレンスは含まない。

【緊急緩和ケア病棟について（都道府県がん診療連携拠点病院のみ）】

・緊急緩和ケア病床数

床
人

・緊急緩和ケア病床の入院患者数（令和3年1月1日～12月31日）

0人
人

【神経ブロックについて】

・難治性疼痛に対する神経ブロックについて、自施設で実施している。

いいえ
0人

・神経ブロックの提供実施（令和3年1月1日～12月31日）

【自施設で実施できない場合には、連携している医療機関名等、神経ブロックの提供における連携協力体制を記入】

日野市立病院、NTT関東病院へ当院麻酔科医師が出向しており、紹介状をもって情報共有。

医療圏内の緩和ケア病棟や在宅緩和ケアが提供できる診療所などのマップやリストを記載してください。

緩和ケアセンターを有する病院は、緊急入院体制の整備にあたり、連携協力をを行っている在宅療養支援診療所等のリストについても記載すること。※個人名やPHSの番号が記載されていないことをご確認ください。

このシートに貼付することが難しい場合、**ファイル名の頭に別紙7を付けた**電子ファイル、別添資料を提出すること。

別添資料の提出有無

あり	(あり／なし)
	(ワード／エクセル／パワーポイント／その他)

その他の場合ファイル形式を記載してください。

【医療圏内の緩和ケア病棟や在宅緩和ケアが提供できる診療所などのマップやリスト】

【緊急入院体制の整備にあたり、連携協力をを行っている在宅療養支援診療所等のリスト】

緩和ケアチームのメンバー

記載の有無	あり
-------	----

※「あり」とするとデータ抽出の対象となります。記載する内容がない場合は「なし」としてください。「なし」の場合は以下について記入の必要はありません。

病院名 :	杏林大学医学部付属病院
-------	-------------

期間 : 令和4年9月1日時点

緩和ケアチームのメンバーについて記載してください。

注1) 様式4のIIの2の(2)診療従事者の回答と齟齬がないように記載してください。

注2) 研修医は除いてください。

注3) 常勤とは、原則として病院で定めた勤務時間の全てを勤務する者をいう。病院で定めた医師の1週間の勤務時間が、32時間未満の場合は、32時間以上勤務している者を常勤とし、その他は非常勤とする。

緩和ケアチームの医師について

	役割	人数	診療科の内訳
例	身体症状の緩和に携わる医師	3	麻酔科2名、消化器外科1名
1	身体症状の緩和に携わる医師	2	麻酔科2名
2	精神症状の緩和に携わる医師	1	精神神経科1名

医師以外の診療従事者について

	職種	常勤 /非常勤	専門資格(取得している場合)
例	管理栄養士	常勤	がん病態栄養専門管理栄養士
1	看護師	常勤	がん性疼痛看護認定看護師
2	薬剤師	常勤	がん専門薬剤師
3	薬剤師	常勤	緩和薬物療法認定薬剤師
4	社会福祉士	常勤	社会福祉士、精神保健福祉士
5			
6			
7			
8			
9			
10			
11			
12			
13			
14			

患者及び家族が利用可能なインターネット環境

記載の有無

あり

※「あり」とするとデータ抽出の対象となります。記載する内容がない場合は「なし」としてください。「なし」の場合は以下について記入の必要はありません。

病院名 : 杏林大学医学部附属病院

時期・期間：令和4年9月1日時点

1	患者が利用できるインターネット環境がある。	はい	(はい／いいえ)
	上記は無料で利用できる。	はい	(はい／いいえ)
2	患者の家族が利用できるインターネット環境がある。	はい	(はい／いいえ)
	上記は無料で利用できる。	はい	(はい／いいえ)
患者・家族がインターネットを利用できる場所について			
ロビーで利用できる。		いいえ	(はい／いいえ)
上記は無料で利用できる。		いいえ	(はい／いいえ)
外来で利用できる。		いいえ	(はい／いいえ)
3	上記は無料で利用できる。	いいえ	(はい／いいえ)
	個室でのみ利用できる。	いいえ	(はい／いいえ)
上記は無料で利用できる。(※1)		いいえ	(はい／いいえ)
個室又は大部屋に関わらず概ね全ての病室において利用できる。(※2)		はい	(はい／いいえ)
上記は無料で利用できる。		はい	(はい／いいえ)
インターネット環境が医療機器等に干渉しないよう、各種のガイドラインを参照している。		いいえ	(はい／いいえ)
4	4が”はい”的に参考としたガイドライン名を以下の欄に記入してください。		

※1 インターネット利用の有無で入院費が変動しない場合は”はい”を選択してください。

※2 集中治療室等の特定の病室を除く多数の病室において利用できる場合は”はい”を選択してください。

がん患者の特性に応じた支援

記載の有無

あり

※「あり」とするとデータ抽出の対象となります。記載する内容がない場合は「なし」としてください。「なし」の場合は以下について記入の必要はありません。

病院名 : 杏林大学医学部付属病院

時期・期間：令和4年9月1日時点

1	自施設でAYA世代のがん患者の支援を行っている 「はい」の場合は、自施設で行うことができる支援の内容を記載してください。 (例) AYA世代のがん患者の就労支援として月に●回の頻度で社労士の訪問を受けている。 がん相談支援センターにて対応している。	はい	(はい／いいえ)
2	自施設でAYA世代のがん患者に関する支援が行えない場合は、患者を紹介する等、AYA世代の支援で連携する施設名を記載してください。 聖路加国際病院、東京都立小児総合医療センター	いいえ	(はい／いいえ)
3	多職種からなるAYA支援チームを設置している。 「はい」の場合は、AYA支援チーム構成員の職種を記載してください。	いいえ	(はい／いいえ)
4	自施設で、がん・生殖医療に関する意思決定支援を行うことができる 診療従事者の育成・配置を行っている。 「はい」の場合は、意思決定支援を行うことができる診療従事者の育成に関する取組状況を記載してください。 AYA世代の患者を担当している看護師に対して、妊娠性温存の意思決定について、パンフレットを使用し指導している。	はい	(はい／いいえ)
5	がん患者の妊娠性の温存に関する支援について、自施設もしくは連携施設への紹介で実施している場合に内容を記載してください。 必要時、生殖医療施設への紹介への紹介、妊娠性温存についての情報提供を実施。		
6	がん患者の就学に関する支援について自施設もしくは連携施設への紹介で実施している場合に内容を記載してください。 社会保険労務士による就労相談を月に1回実施。必要時、長期療養者の就労支援を行っているハローワーク飯田橋を紹介している。		
7	がん患者のアピアランスケアに関する支援について自施設もしくは連携施設への紹介で実施している場合に内容を記載してください。 がん相談支援センターにて対応している。		
8	高齢のがん患者に関して、自施設で実施している機能評価体制について、記載してください。 CGA7を用いて評価している。		

相談支援センターの相談件数と相談支援内容

記載の有無

あり

※「あり」とするとデータ抽出の対象となります。記載する内容がない場合は「なし」としてください。「なし」の場合は以下について記入の必要はありません。

病院名: 杏林大学医学部付属病院

期間: 令和3年1月1日～12月31日

※「自施設の患者・家族」とは、貴院で診療を受けている患者・家族、および以前に貴院で診療を受けた患者・家族のことをさしています。

「他施設の患者・家族」とは、貴院以外の医療機関で診療を受けている患者・家族、および以前に貴院以外の医療機関で診療を受けていた患者・家族のことをさしています。

●年間のべ相談件数

上記1件あたりの平均対応時間	平均	836	件
		34	分
		352	件

●年間の自施設の新規患者の相談件数

1. 相談件数(新規相談件数に限る)

	相談者	計
1	自施設の患者・家族	352
2	1以外の患者・家族・地域住民等	62
3	他の医療機関等の職員	0
	合計	414

●以下の内容についてそれぞれ相談件数を記載してください。

※1回の相談で複数の内容について相談された場合は、それぞれの項目に計上して構いません。

なお、項目の番号については、厚生労働省研究費補助金「がん対策における進捗管理指標の策定と計測システムの確立に関する研究班」が作成した「相談記入シート」を参考にしています。

https://ganjoho.jp/med_pro/consultation/support/registration_sheet.html

	相談内容	件数	相談内容	件数
01.がんの治療	196	17-1.社会生活(仕事・就労)	41	
02.がんの検査	7	17-2.社会生活(学業)	1	
03.症状・副作用・後遺症	31	18.医療費・生活費・社会保障制度	42	
03-01.妊娠性・生殖機能	1	19.補完・代替医療	0	
03-01.アビアランス	5	20.生きがい・価値観	30	
04.セカンドオピニオン(一般)	7	21.不安・精神的苦痛	192	
05.セカンドオピニオン(受け入れ)	4	22.告知	2	
06.セカンドオピニオン(他へ紹介)	0	23.医療者との関係・コミュニケーション	53	
07.治療実績	2	24.患者・家族間の関係・コミュニケーション	50	
08.臨床試験・先進医療	1	25.友人・知人・職場との関係・コミュニケーション	1	
09.受診方法	6	26.患者会・家族会(ニア情報)	1	
10.転院	14	88.不明	0	
11.医療機関の紹介	0	99.その他(下段に自由記載してください)		
12.がん予防・検診	1			
13.在宅医療	29			
14.ホスピス・緩和ケア	72			
15.食事・服薬・入浴・運動・外出など	14			
16.介護・看護・養育	1			

がん相談支援センターの問い合わせ窓口・がん患者カウンセリングの設定

記載の有無

あり

※「あり」とするとデータ抽出の対象となります。記載する内容がない場合は「なし」としてください。「なし」の場合は以下について記入の必要はありません。

病院名: 杏林大学医学部付属病院

時期・期間: 令和4年9月1日時点

1	相談支援センターの名称	がん相談支援センター				
2	問い合わせ先電話番号	0422-47-5511	(内線)	2030		
3	■対面相談の実施（実施/未実施）	実施				
	予約の要否（必要/不要）	必要				
4	■電話相談の実施（実施/未実施）	実施				
	電話番号	0422-47-5511				
	予約の要否（必要/不要）	必要				
5	■FAX相談の実施（実施/未実施）	未実施				
	FAX番号					
6	■電子メール相談の実施（実施/未実施）	未実施				
	メールアドレス ※個人のメールアドレスは記載しないでください					

以下は、都道府県がん診療連携拠点病院の場合のみ記入してください。

1	がん患者カウンセリングが設定されている（はい/いいえ）						
2	外来の名称						
3	主な内容・特色						
4	外来の説明が掲載されているページの見出しとアドレス ※アドレスは、手入力せずにホームページからコピーしてください	見出し					
		アドレス					
5	■地域の患者・家族向けの問い合わせ窓口が設定されている（はい/いいえ）						
	窓口の名称						
	電話番号		(内線)				
6	■地域の医療機関向けの問い合わせ窓口が設定されている（はい/いいえ）						
	窓口の名称						
	電話番号		(内線)				

がん相談支援センターの体制

※「あり」とするとデータ抽出の対象となります。記載する内容がない場合は「なし」としてください。「なし」の場合は以下について記入の必要はありません。

記載の有無
あり

病院名: 杏林大学医学部付属病院

時期・期間: 令和4年9月1日時点

注1)様式4的回答と齟齬がないようにすること。

注2)常勤とは、原則として病院で定めた勤務時間の全てを勤務する者をいう。病院で定めた医師の1週間の勤務時間が、32時間未満の場合は、32時間以上勤務している者を常勤とし、その他は非常勤とする。

注3)「専従」および「専任」とは、当該医療機関における当該診療従事者が、「専従」については「8割以上」、「専任」については「5割以上」、当該業務に従事している者をいう。

■がん対策研究所による「相談支援センター相談員研修・基礎研修」について

対象者	人数
がん対策情報センターによる「相談支援センター相談員研修・基礎研修」(1)～(3)の修了者数	4
うち相談支援に携わる者の専任の人数(専任かつ専従でない者)	3
うち相談支援に携わる者の専従の人数	1
がん対策情報センターによる「相談支援センター相談員研修・基礎研修」(1)および(2)のみの修了者数	0
うち相談支援に携わる者の専任の人数(専任かつ専従でない者)	0
うち相談支援に携わる者の専従の人数	0
がん対策情報センターによる「相談支援センター相談員研修・基礎研修」(1)のみの修了者数	0
うち相談支援に携わる者の専任の人数(専任かつ専従でない者)	0
うち相談支援に携わる者の専従の人数	0
転院や退院調整の業務担当とは別に、がん相談に専従している相談支援センターの相談員数	0

■定期的な知識の更新のための研修等

対象者	人数
①がん相談支援センターに配置されている相談支援に携わる者たちのうち、がん対策研究所によるがん相談支援センター相談員継続研修を受講した人数	0
②相談支援に携わる者たちのうち、上記以外の研修を受講した人数	1
②の具体例	地域相談支援フォーラム、がん等長期療養者就労支援セミナー TokyoAYACanネットワーク第2回公開ウェビナー がんゲノム医療セミナー

■相談支援センターの体制について

※以下の1～6に該当する人数は必ず記載すること。その他の体制についてはそれぞれ記載すること。

※両立支援コーディネーター研修の受講は指定要件ではありません。事業の参考とさせていただきます。

※専従・専任・その他については、当該の相談支援に携わる者が8割以上当該業務に従事している場合には専従、5割以上8割未満の場合には専任、5割未満の場合にはその他としてください。

	職種	専従/専任/その他	人数	うち常勤の人数	両立支援コーディネーター研修を受講した人数
例	看護師	専従	3	2	3
例	社会福祉士	専任			
例	その他	その他			
1	社会福祉士	専従			
2	社会福祉士	専任	1	1	1
3	社会福祉士	その他			
4	精神保健福祉士	専従			
5	精神保健福祉士	専任	1	1	1
6	精神保健福祉士	その他			
7	看護師	専従	1	1	1
8	看護師	専任	1	1	1
9	看護師	その他			
10	その他	その他	2		
11					
12					
13					
14					
15					
16					
17					
18					

■相談支援センターの体制の「職種」で「その他」を選んだ場合、下記に詳細を記入してください。

	職種
例	ピアサポートー(上記リスト9番)
例	社会保険労務士(上記リスト12番)

1	社会保険労務士(上記リスト10番)
2	
3	
4	
5	
6	
7	
8	
9	
10	

■がん患者及びその家族が必ず一度はがん相談支援センターを訪問することができる体制

(必ずしも具体的な相談を伴わない、場所等の確認も含む)

がん患者及びその家族ががん相談支援センターを訪問できる体制に関する、具体的な取り組み状況を記入してください。

■がん相談支援センターの業務内容について、相談者からフィードバックを得る体制

がん相談支援センターの業務内容について、相談者からフィードバックを得る体制に関する、具体的な取り組み状況を記入してください。

1か月間の期間を定め、相談者にアンケートを依頼。相談窓口の体制や、相談対応についての評価を行っている。

がんの診療に関連した専門外来の問い合わせ窓口

記載の有無 あり

※「あり」とするとデータ抽出の対象となります。記載する内容がない場合は「なし」としてください。「なし」の場合は以下について記入の必要はありません。

病院名: 杏林大学医学部付属病院

時期・期間: 令和4年9月1日時点

※ がん診療に関連した専門外来の「対象となる疾患名」の項目は、以下の表の疾患名を用いて記載してください。

表の中に、該当する病名がない場合は、その病名を直接記載してください。

また、すべてのがん種が対象となる場合は、「すべてのがん」と記載してください。

※ がん患者カウンセリングについては、別紙12の下段に記載してください。

頭部／頸部	消化管	泌尿器	女性	その他
脳腫瘍 脊髄腫瘍 眼・眼窩腫瘍 口腔がん 咽頭がん・喉頭がん 甲状腺がん	食道がん 胃がん 小腸がん 大腸がん GIST	腎がん 尿路がん 膀胱がん 副腎腫瘍	子宮頸がん・子宮体がん 卵巣がん その他の女性生殖器がん	後腹膜・腹膜腫瘍 性腺外胚細胞腫瘍 原発不明がん
胸部	肝臓 ／胆道 ／脾臓	男性	皮膚／骨と軟部組織	小兒
肺がん 乳がん 縦隔腫瘍 中皮腫	肝がん 胆道がん 脾がん	前立腺がん 精巣がん その他の男性生殖器がん	皮膚腫瘍 悪性骨軟部腫瘍 血液・リンパ	小兒脳腫瘍 小兒の眼・眼窩腫瘍 小兒悪性骨軟部腫瘍 その他の小兒固形腫瘍 小兒造血器腫瘍

1. 【ストーマ外来】の問い合わせ窓口

1	ストーマ外来が設定されている（はい／いいえ）			はい
2	上記外来の名称	スキンケア外来		
3	対象となるストーマの種類		コロストーマとウロストーマ	
4	対象となる疾患名	直腸癌、大腸がん、膀胱がん、子宮頸がん		
5	主な診療内容・特色	漏れや皮膚障害に対するケア方法、装具の変更、壊死性膿皮症に対する治療、ストーマの合併症（傍ヘルニア、脱）に対するケア方法		
6	ストーマ外来の説明が掲載されているページの見出しとアドレス ※アドレスは、手入力せずにホームページからコピーしてください	見出し アドレス	看護相談外来:ストーマ外来 https://www.kyorin-u.ac.jp/hospital/clinic/others12/#a03	
7	他施設でがんの診療を受けている、または、診療を受けていた患者さんを受け入れている（はい／いいえ）			はい
8	■地域の患者・家族向けの問い合わせ窓口が設定されている（はい／いいえ）			はい
	窓口の名称	消化器・一般外科		
	電話番号	0422-47-5511	(内線)	5411
9	■地域の医療機関向けの問い合わせ窓口が設定されている（はい／いいえ）			はい
	窓口の名称	消化器・一般外科		
	電話番号	0422-47-5511	(内線)	5411

2. 【リンパ浮腫外来】の問い合わせ窓口

1	リンパ浮腫外来が設定されている	はい	(はい／いいえ)	※リンパ浮腫の研修修了者とは、厚生労働省後援のがんのリハビリテーション研修におけるリンパ浮腫研修運営委員会が策定した、「専門的なリンパ浮腫研究に関する教育要綱」にそった研修（講義45時間以上）を修了した医療従事者のことをいう。		
2	研修を修了した担当者が配置されている※	はい	(はい／いいえ)			
3	上記外来の名称	リンパ浮腫ケア相談外来				
4	対象となる疾患名	がんに伴うリンパ浮腫				

電話番号		(内線)			
------	--	------	--	--	--

2) [] 外来の問い合わせ窓口 ※枠内に専門外来の名称を記載してください

1 対象となる疾患名					
2 主な診療内容・特色					
3 上記の外来の説明が掲載されているページの見出しとアドレス ※アドレスは、手入力せずにホームページからコピーしてください	見出し				
4 他施設でがんの診療を受けている、または診療を受けていた患者さんを受け入れている（はい/いいえ）					
■地域の患者・家族向けの問い合わせ窓口が設定されている（はい/いいえ）					
5 窓口の名称					
電話番号	(内線)				
■地域の医療機関向けの問い合わせ窓口が設定されている（はい/いいえ）					
6 窓口の名称					
電話番号	(内線)				

3) [] 外来の問い合わせ窓口 ※枠内に専門外来の名称を記載してください

1 対象となる疾患名					
2 主な診療内容・特色					
3 上記の外来の説明が掲載されているページの見出しとアドレス ※アドレスは、手入力せずにホームページからコピーしてください	見出し				
4 他施設でがんの診療を受けている、または診療を受けていた患者さんを受け入れている（はい/いいえ）					
■地域の患者・家族向けの問い合わせ窓口が設定されている（はい/いいえ）					
5 窓口の名称					
電話番号	(内線)				
■地域の医療機関向けの問い合わせ窓口が設定されている（はい/いいえ）					
6 窓口の名称					
電話番号	(内線)				

1 追加で記載を希望する外来がある場合には、以下に疾患名等の情報を自由に記載してください。

院内がん登録部門の体制

記載の有無

※「あり」とするとデータ抽出の対象となります。記載する内容がない場合は「なし」としてください。
「なし」の場合は以下について記入の必要はありません。

あり

病院名: 杏林大学医学部付属病院

時期・期間: 令和4年9月1日時点

※院内がん登録業務に携わっているスタッフを記載してください。

注1)様式4の回答と齟齬がないようにすること。

注2)常勤とは原則として病院で定めた勤務時間の全てを勤務する者をいう。病院で定めた医師の1週間の勤務時間が、32時間未満の場合は、32時間以上勤務している者を常勤とし、その他は非常勤とする。

注3)「専従」および「専任」とは、当該医療機関における当該診療従事者が、「専従」については「8割以上」、「専任」については「5割以上」、当該業務に従事している者をいう。

	資 格	診療情報 管理業務の 経験年数 (年)	院内がん 登録業務の 経験年数 (年)	常勤 /非常勤	院内がん登録業務 についての 専従/専任/その他	がん対策情報センターによる院内がん登録 実務 初級者研修会・中級者研修会の修了状況 研修会名・受講状況
例	診療情報管理士	4	2	常勤	専従(8割以上)	初級認定者(みなし含む)
例	なし	1	1	非常勤	専任(5割以上8割未満)	初級認定試験・受験なし
1	診療情報管理士	33	14	常勤	専任	中級認定者
2	診療情報管理士	16	14	常勤	専従	中級認定者
3	診療情報管理士	6	6	常勤	専任	初級認定者(みなし含む)
4	なし	14	6	常勤	専従	中級認定者
5	なし	10	3	常勤	専従	初級認定者(みなし含む)
6	診療情報管理士	2	2	常勤	専任	初級認定者(みなし含む)
7	診療情報管理士	2	2	常勤	専任	初級認定者(みなし含む)
8						
9						
10						
11						
12						
13						
14						
15						

臨床試験・治験の実施状況および問い合わせ窓口

記載の有無あり

※「あり」とするとデータ抽出の対象となります。記載する内容がない場合は「なし」としてください。「なし」の場合は以下について記入の必要はありません。

病院名: 杏林大学医学部付属病院

1. 臨床試験・治験の問い合わせ窓口

令和4年9月1日時点

1) 【 臨床試験(治験を除く)】の問い合わせ窓口

■ 臨床試験に参加していない地域の患者さんやご家族向けの問い合わせ窓口の有無について		窓口はない						
※ 臨床試験専用の窓がある場合に限り、以下の表に記載してください。								
問い合わせへ対応している方法に○をつけてください。		窓口	電話	FAX	電子メール			
窓口の名称								
1	上記の窓口の説明が掲載されているページの見出しとアドレス ※アドレスは、手入力せずにホームページからコピーしてください	見出し						
	アドレス							
電話番号		(内線)						
■ 臨床試験に参加していない地域の医療機関向けの問い合わせ窓口について		窓口はない						
※ 臨床試験専用の窓がある場合に限り、以下の表に記載してください。								
問い合わせへ対応している方法に○をつけてください。		窓口	電話	FAX	電子メール			
窓口の名称								
2	上記の窓口の説明が掲載されているページの見出しとアドレス ※アドレスは、手入力せずにホームページからコピーしてください	見出し						
	アドレス							
電話番号		(内線)						

2) 【 治験】の問い合わせ窓口

■ 治験に参加していない地域の患者さんやご家族向けの問い合わせ窓口について		治験専用の窓口がある						
※ 治験専用の窓がある場合に限り、以下の表に記載してください。								
問い合わせへ対応している方法に○をつけてください。		窓口	○	電話	○	FAX	電子メール	
窓口の名称		臨床試験管理室						
1	上記の窓口の説明が掲載されているページの見出しとアドレス ※アドレスは、手入力せずにホームページからコピーしてください	見出し	臨床試験管理室のご紹介					
	アドレス	https://www.kyorin-u.ac.jp/hospital/medical/room/						
電話番号		0422-47-5511		(内線)	2878			
■ 治験に参加していない地域の医療機関向けの問い合わせ窓口について		窓口はない						
※ 治験専用の窓がある場合に限り、以下の表に記載してください。								
問い合わせへ対応している方法に○をつけてください。		窓口	○	電話	○	FAX	電子メール	
窓口の名称								
2	上記の窓口の説明が掲載されているページの見出しとアドレス ※アドレスは、手入力せずにホームページからコピーしてください	見出し						
	アドレス							
電話番号		(内線)						

医療の質の改善の取組について

記載の有無

あり

※「あり」とするとデータ抽出の対象となります。記載する内容がない場合は「なし」としてください。「なし」の場合は以下について記入の必要はありません。

病院名: 杏林大学医学部付属病院

時期・期間: 令和4年9月1日時点

QI研究への参加状況

国立がん研究センターのQI研究に参加している

はい

■自施設の診療機能や診療実績、地域連携に関する実績や活動状況の他、患者QOLについて把握・評価し、課題認識を院内の関係者で共有した上で、組織的な改善策を講じる体制について、必要に応じて図表などを活用し、具体的に記載すること。

このシートに貼付することが難しい場合、**ファイル名の頭に別紙19を付けた**電子ファイル、別添資料を提出すること。

別添資料の提出有無 なし (あり／なし)

ファイル形式 (ワード／エクセル／パワーポイント／その他)

その他の場合ファイル形式を記載してください。

【自施設の診療機能や診療実績、地域連携に関する実績や活動状況の他、患者QOLについて把握・評価し、課題認識を院内の関係者で共有した上で、組織的な改善策を講じる体制】

東京都がん診療連携協議会「評価・改善部会」において、医療の質改善に向けた取り組みの一環として病院相互訪問(8病院で開催)を実施している。

病院相互訪問にて、双方の病院間で確認・検討をした事項については、評価・改善部会・がんセンター運営委員会への報告しております、年2回実施している4病院情報連絡会(4病院で開催)にて報告・検討も行っている。

また、毎年がんセンター運営委員会にて、各部門における質改善に向けた取り組みの進捗状況などを確認し、委員会全体で評価を行っている。

緩和ケアセンターのメンバー(医師および医師以外の診療従事者)

記載の有無	なし
-------	----

※「あり」とするとデータ抽出の対象となります。記載する内容がない場合は「なし」としてください。「なし」の場合は以下について記入の必要はありません。

病院名: 杏林大学医学部付属病院

時期・期間: 令和4年9月1日時点

緩和ケアセンターのメンバーについて記載してください。

注1) 様式4的回答と齟齬がないように記載してください。

注2) 研修医は除いてください。

注3) 常勤とは、原則として病院で定めた勤務時間の全てを勤務する者をいう。病院で定めた医師の1週間の勤務時間が、32時間未満の場合は、32時間以上勤務している者を常勤とし、その他は非常勤とする。

注4) 「専従」および「専任」とは、当該医療機関における当該診療従事者が「専従」については「8割以上」、「専任」については「5割以上」、当該業務に従事している者をいいます。

※ジェネラルマネージャーは、緩和ケアセンターの機能を管理・調整する常勤・専従、かつ院内において管理的立場の看護師であること。
※相談支援に携わる者については、相談支援センターの相談支援に携わる者との兼任および、相談支援センター内にて当該業務に従事することを可とする。ただし、この場合の専任とは、緩和ケアセンターにおける相談支援業務を中心となって担当していればよく、その就業時間の5割以上を緩和ケアセンターにおける相談支援業務に従事していることは求めない。

緩和ケアセンターの医師について

	役割	人数	診療科の内訳
例	身体症状の緩和に携わる医師	3	麻酔科2名(※内1名は緩和ケアセンター長)、消化器外科1名
	身体症状の緩和に携わる医師		
	精神症状の緩和に携わる医師		

緩和ケアセンターの看護師について(ジェネラルマネージャーおよび専門資格を有する者のみ記載してください。)

※専門資格を複数有している場合や欄に入りきらない場合は下の自由記載欄も使用してください。

	センターでの役割	常勤/ 非常勤	専従/専任 /その他	専門資格
1	ジェネラルマネージャー	常勤	専従(8割以上)	
2	ジェネラルマネージャーではない 看護師	常勤	専従(8割以上)	
3	ジェネラルマネージャーではない 看護師	常勤	専従(8割以上)	
4	ジェネラルマネージャーではない 看護師			
5	ジェネラルマネージャーではない 看護師			
6	ジェネラルマネージャーではない 看護師			
7	ジェネラルマネージャーではない 看護師			

緩和ケアセンターの医師・看護師以外の診療従事者について

	職種	常勤/ 非常勤	専従/専任 /その他	専門資格(取得している場合)
8				
9				
10				

11				
12				
13				
14				
15				
16				
17				

	自由記載欄
例	ジェネラルマネージャー以外の看護師(上記リスト3番:がん看護専門看護師の他、がん性疼痛看護認定看護師資格有り)
例	事務員(上記リスト12番)
1	
2	
3	
4	
5	
6	
7	
8	
9	
10	

特定のがん種に対する集学的治療提供体制について

記載の有無

なし

※「あり」とするとデータ抽出の対象となります。記載する内容がない場合は「なし」としてください。「なし」の場合は以下について記入の必要はありません。

病院名: 杏林大学医学部付属病院

期間: 令和3年1月1日～12月31日

特定のがん種に対する集学的治療提供体制について、都道府県内で最も多くの患者を診療していることを明記し、必要に応じ図等を用いわかりやすく説明してください。

このシートのほかに資料がある場合は、**ファイル名の頭に別紙22を付けた**電子ファイル、別添資料を提出すること。

別添資料の提出有無 (あり／なし)

ファイル形式 (ワード／エクセル／パワーポイント／その他)

その他の場合ファイル形式を記載してください。

特定のがん種

年間新入院患者数

年間新入院当該がん患者数

年間新入院患者数に占める当該がん患者の割合

年間外来当該がん患者のべ数

年間院内死亡当該がん患者数

当該がんに係る年間の手術件数

当該がんに対する年間の化学療法件数

※経口または静注による全身投与を対象とし、件数については1レジメンあたりを1件として計上する。

当該がんに係る年間の放射線治療件数

※複数部位照射する場合でも、一連の治療計画であれば1件として計上する。

人
人
%
人
人
件
件

件

特定のがん種

年間新入院患者数

年間新入院当該がん患者数

年間新入院患者数に占める当該がん患者の割合

年間外来当該がん患者のべ数

年間院内死亡当該がん患者数

当該がんに係る年間の手術件数

当該がんに対する年間の化学療法件数

※経口または静注による全身投与を対象とし、件数については1レジメンあたりを1件として計上する。

当該がんに係る年間の放射線治療件数

※複数部位照射する場合でも、一連の治療計画であれば1件として計上する。

人
人
%
人
人
件
件

件

特定のがん種

年間新入院患者数

年間新入院当該がん患者数

年間新入院患者数に占める当該がん患者の割合

年間外来当該がん患者のべ数

年間院内死亡当該がん患者数

当該がんに係る年間の手術件数

当該がんに対する年間の化学療法件数

※経口または静注による全身投与を対象とし、件数については1レジメンあたりを1件として計上する。

当該がんに係る年間の放射線治療件数

※複数部位照射する場合でも、一連の治療計画であれば1件として計上する。

人
人
%
人
人
件
件

件

がん診療連携拠点病院等との連携診療体制について

記載の有無

なし

※「あり」とするとデータ抽出の対象となります。記載する内容がない場合は「なし」としてください。「なし」の場合は以下について記入の必要はありません。

病院名 : 杏林大学医学部附属病院

時期・期間：令和4年9月1日時点

緊急な治療が必要な患者や合併症を持ち高度な周術期管理が必要な患者に対するがん診療連携拠点病院等と連携による診療体制について、必要に応じ図等を用いわかりやすく説明してください。

このシートに貼付することが難しい場合、**ファイル名の頭に別紙23を付けた**電子ファイル、別添資料を提出すること。

別添資料の提出有無

ファイル形式

その他の場合ファイル形式を記載してください。

【緊急な治療が必要な患者や合併症を持ち高度な周術期管理が必要な患者に対するがん診療連携拠点病院等と連携による診療体制】

特定領域がん診療連携拠点病院の人材交流について

記載の有無

なし

※「あり」とするとデータ抽出の対象となります。記載する内容がない場合は「なし」としてください。「なし」の場合は以下について記入の必要はありません。

病院名 : 杏林大学医学部付属病院

時期・期間：令和3年1月1日～12月31日

※他の拠点病院等との人材交流計画について記載してください。

※個人名やPHSの番号が記載されていないことをご確認ください。

	受入／派遣	期間	職種	(受入元／派遣先)医療機関名	専門分野
例	受入	令和3年4月1日～9月30日	看護師	XX病院	がん看護認定看護師
例	派遣	令和3年10月1日～12月31日	医師	YY病院	上部消化器外科
1					
2					
3					
4					
5					
6					
7					
8					
9					
10					
11					
12					
13					
14					
15					
16					
17					
18					
19					
20					

グループ指定の状況

※「あり」とするとデータ抽出の対象となります。記載する内容がない場合は「なし」としてください。「なし」の場合は以下について記入の必要はありません。

記載の有無

なし

病院名：杏林大学医学部付属病院

■グループ指定のがん診療連携拠点病院との定期的なカンファレンスの開催実施件数

期間：令和3年1月1日～12月31日

■グループ指定を受けるがん診療連携拠点病院との連携と役割分担の状況

時期：令和4年9月1日時点

	がん医療圈名	医療機関名	連携内容(がんの種類と役割分担)
1			
2			
3			
4			
5			
6			
7			
8			
9			
10			

グループ間の人材交流計画について

記載の有無

なし

※「あり」とするとデータ抽出の対象となります。記載する内容がない場合は「なし」としてください。「なし」の場合は以下について記入の必要はありません。

病院名：杏林大学医学部付属病院

時期・期間：令和3年1月1日～12月31日

※グループ指定施設間での人材交流計画について記載してください。

※個人名やPHSの番号が記載されていないことをご確認ください。

受入／派遣	期間	(受入元／派遣先)医療機関名	専門分野
例	受入	令和3年4月1日～9月30日	XX病院
1			
2			
3			
4			
5			
6			
7			
8			
9			
10			
11			
12			
13			
14			
15			
16			
17			
18			
19			
20			

グループ指定の状況

※「あり」とするとデータ抽出の対象となります。記載する内容がない場合は「なし」としてください。「なし」の場合は以下について記入の必要はありません。

記載の有無

なし

病院名: 杏林大学医学部附属病院

時期・期間: 令和4年9月1日時点

がん医療圈名	医療機関名	連携内容(がんの種類と役割分担)
1		
2		
3		
4		
5		
6		
7		
8		
9		
10		

都道府県協議会の内容

※「あり」とするとデータ抽出の対象となります。記載する内容がない場合は「なし」としてください。「なし」の場合は以下について記入の必要はありません。

記載の有無
なし

病院名: 杏林大学医学部付属病院

時期・期間: 令和3年4月1日～令和4年3月31日

※以下は、都道府県拠点病院への指定を希望する病院のみ記載してください。現状の把握にのみ使用し、指定の検討会では使用しません。

●令和3年度に開催した都道府県協議会について記載してください。

(1)患者本位のがん医療を実現する等の観点から、当該都道府県における対策を強力に推進するための議論を行った。

(2)都道府県全体のがん医療等の質の向上のために、都道府県内のどこに住んでいても適切な診断や治療にスムーズにアクセスできる体制を確保すべく、以下の議論を行った。

① 地域の実状に応じて、医療機関間の連携が必要な医療等について、都道府県内の各拠点病院等及び他のがん診療を担う医療機関における役割分担を整理・明確化し、その内容を関係者間で共有するとともに広く周知した。

② 地域がん診療病院とがん診療連携拠点病院とのグループ指定の組み合わせを調整・決定した。

③ 都道府県内の拠点病院等の院内がん登録のデータやがん診療、緩和ケア、相談支援等の実績等を共有、分析、評価、公表等を行った。

各都道府県とも連携し、Quality Indicatorを積極的に利用するなど、都道府県全体のがん医療の質を向上させるための具体的な計画を立案・実行した。

院内がん登録実務者の支援を含めて都道府県内のがん関連情報収集や利活用等の推進に取り組んだ。

④ 地域における相談支援や緩和ケアの提供体制・連携体制について協議を行い、拠点病院等の間で情報共有や役割分担を含む連携体制を整備した。

⑤ 当該都道府県における特定機能病院である拠点病院等と連携し、地域におけるがん診療に従事する診療従事者の育成及び適正配置に向けた調整を行った。

⑥ 整備指針Ⅱの4の(3)に基づき当該都道府県における拠点病院等が実施するがん医療に携わる医師等を対象とした緩和ケアに関する研修や

その他各種研修に関する計画を作成している。

⑦ 当該都道府県内の医療機関における診療、緩和ケア外来、がん相談支援センター、セカンドオピニオン、患者サロン、患者支援団体、在宅医療等への

アクセスについて情報を集約し医療機関間で共有するとともに、冊子やホームページ等でわかりやすく広報している。

⑧ 国協議会との体系的な連携体制を構築している。

⑨ 国立がん研究センターによる研修に関する情報や国協議会での協議事項が確実に都道府県内で共有・実践される体制を整備している。

⑩ 感染症の蔓延や災害等の状況においても必要ながん医療を提供する体制を確保するため、当該都道府県や各がん医療圏におけるBCPについて議論を行った。

⑪ 地域における医療情報の共有の取組について、がんの分野からも検討し、体制整備に取り組んでいる。

【参考】

●令和3年4月1日～令和4年3月30日に開催した都道府県協議会の参加者について

同一都道府県内の全ての拠点病院等が参加した

都道府県等の行政の参加があった

拠点病院等以外の地域のがん診療を行う者の参加があった

小児がん拠点病院等の、小児がん診療を行う者の参加があった

がん患者・経験者やその家族や患者団体等の意見を代表する者の参加があった

●都道府県協議会の広報体制について

都道府県協議会についてわかりやすく広報を行うためのWebサイトがある。

Webサイトや、冊子等で、都道府県協議会で議論された内容を広報している。

WebサイトのURL

●令和3年4月1日～令和4年3月30日に開催した都道府県協議会での議論の内容について

都道府県協議会の議題や議事録等、議論の内容がわかる資料を提出すること。(ファイル名の頭に別紙28を付けること)